禁転載複製
当日配付
試験終了後公開

B42

「中央職業能力開発協会編」

令和７年度 技能検定
２級 建築大工 学科試験問題
(大工工事作業)

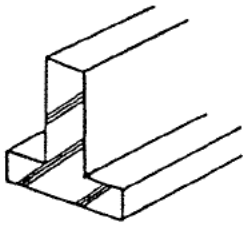
1. 試験時間　1時間40分
2. 問題数　50題(A群25題、B群25題)
3. 注意事項
   (1) 係員の指示があるまで、この表紙はあけないでください。
   (2) 答案用紙(真偽法と多肢択一法の併用)に検定職種名、作業名、級別、受検番号、氏名を必ず記入してください。
   (3) 係員の指示に従って、問題数を確かめてください。それらに異常がある場合は、黙って手を挙げてください。問題はA群(真偽法)とB群(多肢択一法)とに分かれています。
   (4) 試験開始の合図で始めてください。
   (5) 解答の方法(真偽法と多肢択一法の併用)は次のとおりです。
      イ. A群の問題(真偽法)は、一つ一つの問題の内容が正しいか、誤っているかを判断して解答してください。
      ロ. B群の問題(多肢択一法)は、正解と思うものを一つだけ選んで、解答してください。二つ以上に解答した場合は誤答となります。
      ハ. 答案用紙(マークシート用紙)へ解答する際は、答案用紙に記載されている注意事項に従ってください。
      ニ. 答案用紙の解答欄は、A群の問題とB群の問題とでは異なります。所定の解答欄に、試験問題の題数に応じて解答してください。解答欄はA群は50題まで、B群は25題まで解答できるようになっています。
   (6) 電子式卓上計算機その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
   (7) 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等は、使用してはいけません。
   (8) 試験中、質問があるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
   (9) 試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (10) 試験中に手洗いに立ちたいときは、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (11) 試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。

［A群（真偽法）］

1　木造建築物で、はり間の大きい小屋組は、洋小屋よりも和小屋の方が適している。

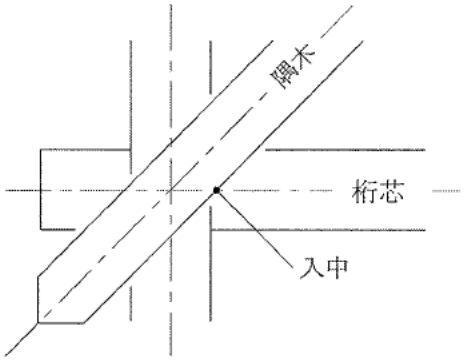
2　洋小屋組には、キングポストトラス、クイーンポストトラスなどがある。

3　次図に示す基礎は、布基礎である。

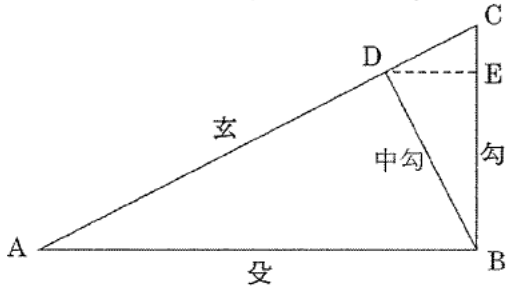


4　鉄筋コンクリート造の最小かぶり厚さは、土に接する部分の柱のほうが土に接しない部分の柱よりも大きい。

5　次図のように、隅木の側面と桁上端芯との交点を入中という。

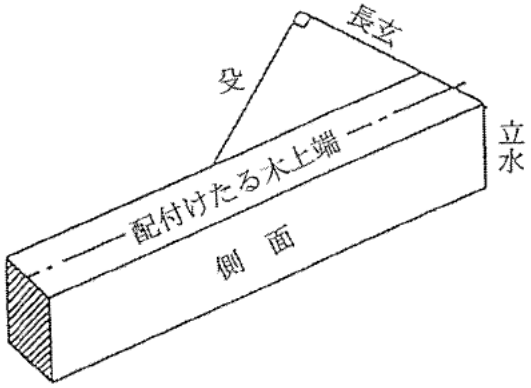


6　次図におけるD－Eは、小勾である。

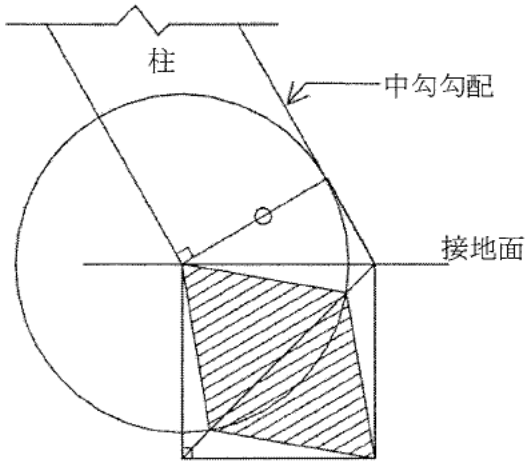


［A群（真偽法）］

7　次図は、配付けたる木の上端切墨を表したものである。



8　次図は、柱建て四方転びの柱のくせの展開図である。



9　角のみ盤の心きりの刃先は、角のみの下端から10～20mm程度出しておくとよい。

10　手かんなの仕込み角度とは、切削角のことをいう。

11　バーチャート工程表(横線式工程表)は、ネットワーク工程表よりも各専門工事相互の関係が明確である。

12　仮設工事の仮囲いは、材料等の飛散等を防止する目的もある。

13　水盛りタンクで行う遣方(やりかた)は、高低差の大きな地盤に適している。

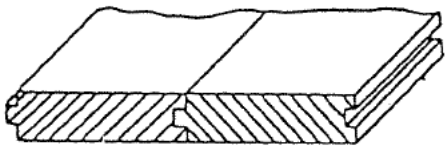
14　地縄張りとは、水盛りに先だって建物の位置を出すことをいう。

［A群（真偽法）］

15　鉄筋に取り付けるスペーサなどは、コンクリートの打込み時に、移動しないようにしなければならない。

16　柱に背割りをする目的の一つは、見付面の割れを防ぐためである。

17　次図の床板の仕口は、本ざねはぎである。



18　木造住宅のバルコニー床の防水には、アスファルト防水が最も適している。

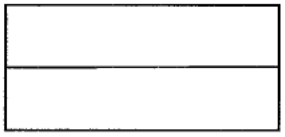
19　モルタル塗り工事で、セメント量の割合を多くすると、ひび割れが生じやすい。

20　無垢材を使用したフローリング床の養生は、壁の塗装工事の完了後に行うのがよい。

21　ヒバ材は、虫害に強いので、土台にも使用されている。

22　アルミニウムは、アルカリに弱い材質である。

23　次図の屋根伏図は、方形屋根である。



24　労働安全衛生法関係法令によれば、単管足場(単管足場用鋼管規格に適合する鋼管を用いて構成される鋼管足場)の建地の間隔は、けた行方向を1.85m以下、はり間方向を1.5m以下とすることとされている。

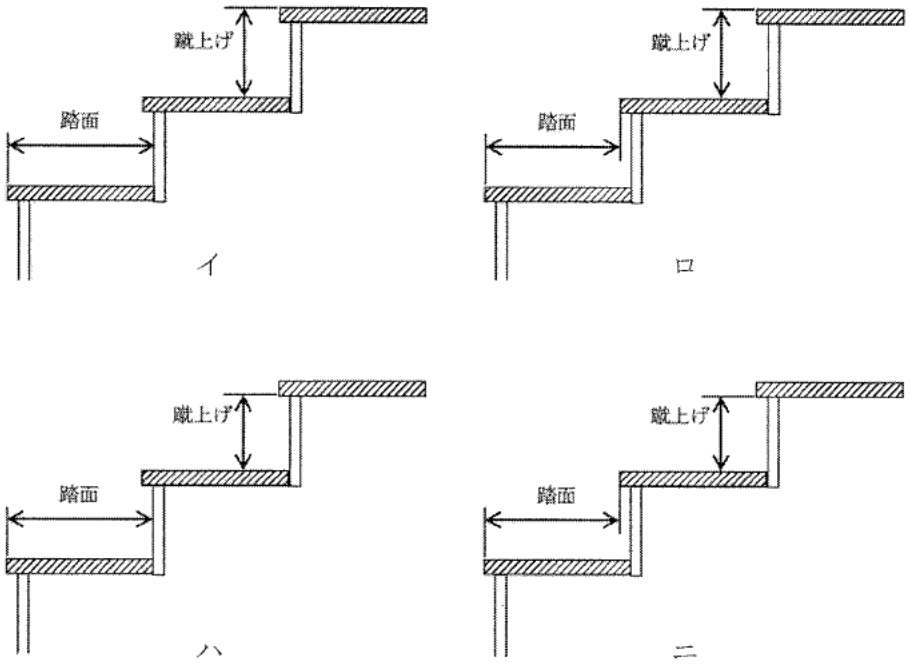
25　労働安全衛生法関係法令によれば、高さ2m以上で階段を設けない架設通路の勾配は、30°以下とすることとされている。

［B群（多肢択一法）］

1　木材で組んだ枠に合板などを打ち付けた床枠組や壁枠組を組み立てて一体化する構造として、正しいものはどれか。

イ　在来軸組構法
ロ　枠組壁構法
ハ　丸太組構法
ニ　集成材構法

2　階段の蹴上げ及び踏面の寸法の測り方として、正しいものはどれか。



3　木造住宅において使用しない柱はどれか。

イ　大黒柱
ロ　通柱
ハ　床柱
ニ　御柱

4　部材と部材が剛接合である構造として、正しいものはどれか。

イ　トラス構造
ロ　ラーメン構造
ハ　木造軸組
ニ　レンガ造

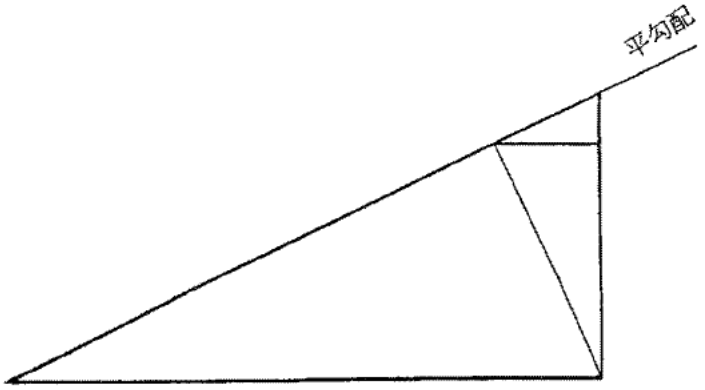
［B群（多肢択一法)］

5　力の三要素の組合せとして、正しいものはどれか。

イ　大きさ　　方向(向き)　　作用点
ロ　大きさ　　方向(向き)　　支点
ハ　応力　　方向(向き)　　作用点
ニ　応力　　方向(向き)　　支点

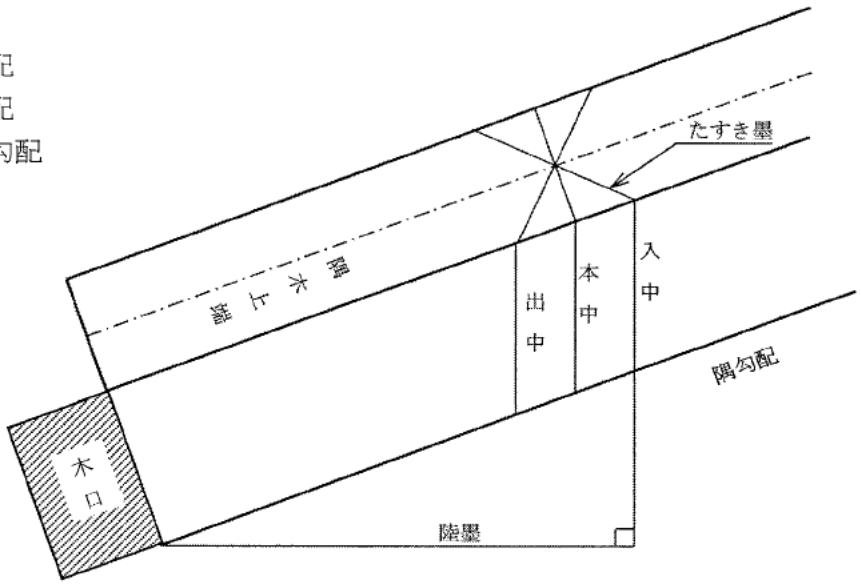
6　次図は規矩術の基本図であるが、図中にないものはどれか。

イ　勾
ロ　殳
ハ　玄
ニ　小中勾



7　棒隅木(真隅木)上端に山勾配がない場合、桁芯方向のたすき墨のさしがね使いとして、正しいものはどれか。

イ　矩勾配
ロ　長玄勾配
ハ　中勾勾配
ニ　隅長玄勾配



［B群（多肢択一法）］

8　棒隅木(真隅木)の山勾配の取り方のさしがね使いとして、適切なものはどれか。
イ　平勾の返し勾配
ロ　長玄の返し勾配
ハ　中勾の返し勾配
ニ　隅中勾の返し勾配

9　仕上げかんなの削り方として、適切なものはどれか。
イ　薄く、幅広く、長く削る。
ロ　薄く、幅狭く、短く削る。
ハ　厚く、幅広く、短く削る。
ニ　厚く、幅狭く、長く削る。

10　大工道具に使用される木の種類として、適切でないものはどれか。
イ　かんな台　……　シラカシ
ロ　のこぎりの柄　……　ヒノキ
ハ　玄能の柄　……　スギ
ニ　墨つぼ　……　ケヤキ

11　建築工事工程表作成において、関係のないものはどれか。
イ　気候、季節
ロ　材料の現場搬入時期
ハ　実行予算
ニ　工事間の順序

12　労働安全衛生法関係法令によれば、高さ2m以上の作業床において、墜落の危険のある箇所に設ける手すりの高さとして、正しいものはどれか。
イ　65cm以上
ロ　70cm以上
ハ　85cm以上
ニ　95cm以上

13　一般に使用されている墨付けにおいて、にじり印を表す記号として、正しいものはどれか。



イ　ロ　ハ　ニ

［B群（多肢択一法）］

14　文中の(　　)内に当てはまる数値として、正しいものはどれか。

木造住宅における床下防湿コンクリートの厚さは、(　　)mm以上とする。ただし、基礎の構造をべた基礎とした場合は、この限りではない。

イ　30
ロ　40
ハ　50
ニ　60

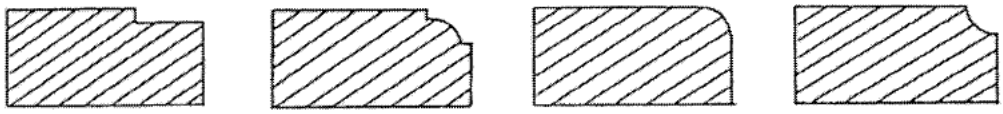
15　木構造の施工に関する記述として、誤っているものはどれか。

イ　柱の間隔が広い場合、2階はりを柱間の中央で、鎌継ぎにする。
ロ　母屋の転止めを合掌に打ち付ける。
ハ　火打土台を傾ぎ大入れとし、大釘で止める。
ニ　真束を陸(ろく)ばりの下から箱金物で締める。

16　木造2階建ての建方の順序として、適切なものはどれか。

イ　土台 → 1階軸組 → 2階軸組 → 小屋組 → 仮筋かい
ロ　土台 → 1階軸組 → 仮筋かい → 2階軸組 → 小屋組
ハ　土台 → 1階軸組 → 小屋組 → 2階軸組 → 仮筋かい
ニ　土台 → 1階軸組 → 小屋組 → 仮筋かい → 2階軸組

17　次図の面取りのうち、ぎんなん面はどれか。



イ　ロ　ハ　ニ

18　軸組工法用の接合金物の用途に関する記述として、誤っているものはどれか。

イ　ひねり金物は、柱と横架材の接合に使用される。
ロ　ホールダウン金物は、柱と基礎(土台)の接合に使用される。
ハ　羽子板ボルトは、通し柱と胴差しの接合に使用される。
ニ　火打金物は、床組及び小屋組の隅角部の補強に使用される。

19　根太工法において、クッションフロア(CF)を張る場合、床下地合板の厚さとして、適切なものはどれか。

イ　3mm
ロ　5.5mm
ハ　9mm
ニ　12mm

［B群（多肢択一法）］

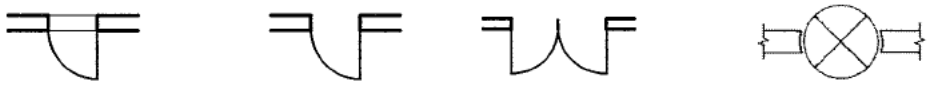
20　住宅に使用する木材を選ぶ場合の組合せとして、適切なものはどれか。

	（土台）	（柱）	（小屋ばり）
イ	マツ	スギ	ヒノキ
ロ	スギ	マツ	ヒノキ
ハ	スギ	ヒノキ	マツ
ニ	ヒノキ	スギ	マツ

21　建築基準法関係法令によれば、内装材として、使用面積の制限を受けない材料の等級はどれか。

イ　F☆☆☆☆
ロ　F☆☆☆
ハ　F☆☆
ニ　F☆

22　日本産業規格(JIS)の建築製図通則によれば、片開き窓を表す平面表示記号として、正しいものはどれか。



イ　ロ　ハ　ニ

23　建築基準法関係法令において、主要構造部はどれか。

イ　屋根
ロ　付け柱
ハ　間柱
ニ　小ばり

24　建築基準法関係法令において、建蔽率の算出式とされているものはどれか。

イ　延床面積÷建築面積
ロ　延床面積÷敷地面積
ハ　建築面積÷敷地面積
ニ　建築面積÷延床面積

25　文中の(　　)内に当てはまる数値として、正しいものはどれか。

労働安全衛生法関係法令によれば、高さ2m以上の作業場所に設ける作業床の幅は、一側足場及びつり足場の場合を除き、(　　)cm以上とすることとされている。

イ　30
ロ　40
ハ　50
ニ　60